

リーディング大学院認定式 リーディング院生代表挨拶

東北大学リーディング大学院新入生の菅野です。本日は僭越ながら新入生代表として、ご挨拶させていただきます。

やわらかな春の光の中、私たちは東北大学リーディング大学院認定式を迎えました。はじめに本日お集まりいただいた皆様と、本プログラムの運営に関わる全ての方々へ、心より感謝申し上げます。

私は新鮮な気持ちでここに立っています。とはいえ、工学部を卒業した私が通い慣れたこの建物で認定式を終え、お昼は1階の食堂で済ませ、私は所属する研究室に戻るでしょう。ものごとは、そう劇的には変わりません。だからこそ今感じるこの新鮮さが、とても得難いものであると思います。

東日本大震災から5年が経ち、それまでの生活を取り戻した地域や、新しい生活の落ち着きはじめた地域もあれば、今なお復旧されない被害を抱える地域も数多くあります。東北地方の復興は、一朝一夕には解決できません。大きな課題を抱えた東北の地で、私たちはリーディング大学院に応募し、「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」に参加しました。私たちは、自分自身の変化と向上に期待して行動を起こしました。いずれ本プログラムを修了する時、この新鮮な気持ちを穏やかな自信に持ち替えて、いよいよ、自らの能力で社会を「安心・安全」へ導いてゆく本当のスタートを切りたいと考えております。

これから安心して安全な社会を作るために、リーダーは何を求められるでしょうか。この問い掛けに唯一解はありません。100人いたら100通りのリーダー像が存在し、100通りの理想を足し算した分の期待が寄せられるリーダーの胸中をお察しいたします。

私は「信頼と実績」という言葉を聞くと、この言葉がリーダーに求められる資質を端的に表しているように感じます。信頼は安心につながり、実績は安全に結びつくものです。そして信頼と実績は、小さな努力の集積に他なりません。ですから、人一倍努力を続けてきた人間が周囲に認められて、リーダーとなる事はとても自然であると言えます。私たちはリーディング大学院で、人一倍努力できる絶好の機会を与えていただきました。その機会を活かすか殺すか、この問い掛けの答はおおよそはっきりしているように思います。

最後になりましたが、分野横断的な学習を奨励する本プログラムにおいて、さまざまな分野を究める先生方および先輩方、同期の皆様と連携できることを期待いたしております。

以上です。ありがとうございました。

平成 28 年 4 月 1 日

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

菅野 蓮華（工学研究科・土木工学専攻）